

# 教育方法論

教職課程科目/2単位/T授業

担当教員 栗山 和広

■使用テキスト 栗山和広(編著)『授業の心理学』福村出版

◆参考テキスト 栗山和広(編著)『子どもはどう考えるか』おうふう  
吉田 甫・栗山和広(編著)『教室でどう教えるかどう学ぶか』北大路書房

## 講義概要・一般目標

子どもの学習支援にたいしては、授業のわかりやすさ、興味ある授業を考えることが重要である。教育方法論では、子どもにわかりやすい、興味のわく授業方法について、認知心理学の視点から、以下の点について考えていきます。Part1で、教授学習の理論的基礎、動機づけ、知識の構造と獲得、学習観・メタ認知・批判的思考、part2で、教科理解、授業形態、学習困難をかかえる児童への教育的支援、教育評価について学習します。

## 到達目標

- 1) 教育方法に関する基礎的な知識を実践へ応用することができる。
- 2) 教科理解に関する指導法について理解する。
- 3) 教室で行われる一般的な指導方法について説明できる。

## 評価方法

科目単位認定試験により評価。

## 学習指導

### 第1章 教授・学習の理論的概観

#### この章のポイント

この章では、教授学習の理論的展開が教育実践へ何をもたらしたかについて、行動主義、認知心理学、状況的認知論、学習環境のデザインの研究の枠組みの変化について学びます。

### 第2章 教室での動機づけ

#### この章のポイント

この章では、教室における動機づけのありかたについて学びます。やる気や意欲は、心理学における動機づけの問題として扱われています。最近の自己調整学習やピア・ラーニングに関する知見について学び、さらに自ら学び合う集団づくりの実践についても考えていきます。

### 第3章 知識の構造と獲得

#### この章のポイント

この章では、知識の蓄えられ方や獲得のされ方の仕組みを知ることにより、子どもたちの学びのメカニズムについて理解し、教える技術について学びます。

## 第4章 学習観・メタ認知・批判的思考

### この章のポイント

この章では、子どもの思考力・判断力を育成するための指導法として、第1に、子どもが持つ基本的な信念としての学習観について考え、適切な学習観には、どのような学習方略が重要であるかについて学びます。第2に、認知の一段上にあるメタ認知について学びます。第3に、子ども自らの考えや意志が学びに反映される批判的思考について学びます。

## 第5章 数の理解と指導

### この章のポイント

この章では、子どもが数概念を実際にどのように理解し、学習しているかについて考えます。子どもの数概念の中でも、数表象の構造、たし算とひき算、文章題、分数・割合について、子どもの内的な知識について学びます。

## 第6章 読解と作文の理解と指導

### この章のポイント

この章では、国語科の指導に関して、どのような指導や学習の場面で、認知心理学のどのような理論や考えをもちいられるかについて学びます。

## 第7章 科学的概念の理解と指導

### この章のポイント

この章では、理科の授業をとおして学ぶべきとされる科学的概念と科学的思考について学び、それらの難しさについて考えるとともに、その難しさを克服する指導について学びます。

## 第8章 社会的認識と指導

### この章のポイント

この章では、子どもの社会的認識とその指導について学びます。主として、地理認識、歴史認識、経済認識について学びます。

## 第9章 外国語の理解と指導

### この章のポイント

この章では、外国語教育を重視する動きの中で、外国語を学ぶ意義、コミュニケーションを中心とした教授法について学びます。

## 第10章 授業の形態

### この章のポイント

この章では、学校で実践されている授業の形態について学びます。具体的には、教師主導型授業、学習者中心授業、個人差を重視した授業、ICTを活用した授業などについて学びます。

## 第11章 学習困難をかかえる児童への教育的支援

### この章のポイント

この章では、学習に困難をかかえる児童に対し、学習を支える認知的基盤であるワーキングメモリーの視点から考え、その支援について学びます。

## 第12章 教育評価と授業

### この章のポイント

この章では、授業の成果を確認し、授業に役立つ情報としての教育評価について学びます。教育評価の世界は、最近大きく変化しており、こうした新しい教育評価のあり方について学びます。